

平成 2 8 年度 国 営 事 業 評 価 技 術 検 討 会

**国営土地改良事業等事後評価
現地調査概要**

平成 2 8 年 7 月 7 日

北海道開発局 農業水産部

目 次

（国営かんがい排水事業）

利別川地区	・・・・・・・・・・・・・・・・	1
空知川右岸地区	・・・・・・・・・・・・・・・・	2
札内川第一地区	・・・・・・・・・・・・・・・・	4

（国営総合農地防災事業）

湧別地区	・・・・・・・・・・・・・・・・	5
------	------------------	---

平成 28 年度 事後評価「利別川地区」国営事業評価技術検討会
現地調査概要（案）

日 時：平成 28 年 6 月 16 日（水） 14:55～16:10

出席者：（技術検討会）長澤委員長、岡村委員、中原委員
（地元関係団体等）農業者、今金町、せたな町、狩場利別土地改良区
今金町農業協同組合

事務局：北海道開発局

概 要：

【現 地】整備箇所（頭首工、用水路、整備ほ場）

【意見交換会】

委員から、事業に対する効果、要望、期待等に関する質問があり、参加団体から以下の回答や意見、状況説明等や委員から評価に関する意見があった。

・事業実施前は、用水路からの漏水が多く、排水路の水を反復利用していたが、実施後は、必要な時期に十分な用水を確保できるようになった。

・農家は、自然のなかで生かされているので、自然環境への配慮に関心があり、河川の水質を守ろうという話し合いもしている。

現在では、排水路において様々な魚類が生息しており、子供たちが釣りをする姿が見られるなど遊び場が多くなっていると感じる。

・地域の特産である「今金男^{たん}しやく」は、ブランド価値を維持して、他地域より高い価格で取引してもらうため、収量よりも品質を重視して生産している。

・温湯消毒に取り組むなど減農薬に努め、今後も消費者に選ばれる産地となるため、クリーン農業を進めていきたい。

・土地改良事業の実施後に農家に話を聞くと、地域内のつながりの強化や経営上の安心感につながっているとの声を聞く機会が多い。

事業実施の判断基準に、数値として評価しにくい内容をいかに反映していくかが重要である。

以上

平成 28 年度 事後評価「空知川右岸地区」国営事業評価技術検討会
現地調査概要（案）

日 時：平成 28 年 6 月 1 日（水） 14:00～15:10

出席者：（技術検討会）長澤委員長、岡村委員、紺野委員、中原委員、
波多野委員、森委員

（地元関係団体等）農業者、富良野市、上富良野町、
中富良野町農業センター、ふらの農業協同組合

事務局：北海道開発局

概 要：

【現 地】整備箇所(整備ほ場、用水路、頭首工)、フラノマルシェ内直売所

【意見交換会】

委員から、事業に対する効果、要望、期待等に関する質問があり、参加団体から以下の回答や意見、状況説明等や委員から評価に関する意見があった。

・事業及び関連事業の実施によって、水に不自由しなくなっただけでなく、水が上下流で均等に配分されるようになったことで春先の水争いが解消され、精神面での負担から解放された。

・乾田直播では、雑草（ヒエ）の成長に負けないよう早く発芽させることが重要であるため、なるべく温かい水を使いたいが、開水路がパイプライン化され、便利な反面、水温が上がらず、春先の作物生育に不安を感じることもある。

・地下水位制御システムの導入によって、地下からの水の供給が可能となるだけでなく、高温時期に土壌の温度を低下させる付随的な効果もあり、特にたまねぎの生育上有効であると感じる。

・事業実施後は、タマネギをはじめ多様な作物が増えている。

また、ばれいしょでは、6次産業化の取組として、南富良野町にある工場でポテトチップスに加工し、農産物に付加価値をつけることで、農家の所得向上につなげている。

・農家としては、かんがい用水を使える期間が長ければ長いほど良いとは思いますが、凍結の恐れがある時期に、維持管理の手間をかけてまで欲しいということではなく、限られた期間のかんがい用水を大事に使うことが重要と考える。

・施設を管理する改良区としては、山際の開水路は、水路に倒木が落ちたり、動物が迷い込んだりして管理が大変であるが、水温を少しでも上げたいという農家の要望に応えるためにも、現状の開水路を適切に管理していきたい。

一方で、改良区だけでは対処しきれない部分があるので、今後とも多面的機能支払交付金を活用した保全組織の協力を頂きながら、維持管理を行っていききたい。

・地域は、山岳景観と農村景観を楽しむ観光客が訪れるが、農地が農地として維持されることで季節ごとの風景が楽しめる。

事業によって作業の効率化が図られ、農家が規模拡大して営農を継続できることは、農地の適切な保全につながっており、観光面で大きな効果を感じている。

・魚道設置後の追跡調査等を行い、新たな頭首工を造る時にその知見を生かすことが重要である。

以上

平成 28 年度 事後評価「札内川第一地区」国営事業評価技術検討会
現地調査概要（案）

日 時：平成 28 年 6 月 8 日（水） 15:30～16:40

出席者：（技術検討会）長澤委員長、岡村委員、紺野委員、中原委員、
波多野委員、森委員
（地元関係団体等）農業者、帯広市、中札内村、更別村、幕別町、
中札内村農業協同組合

事務局：北海道開発局

概 要：

【現 地】整備箇所(整備ほ場、頭首工)、道の駅内直売所

【意見交換会】

委員から、事業に対する効果、要望、期待等に関する質問があり、参加団体から以下の回答や意見、状況説明等や委員から評価に関する意見があった。

・かんがい用水は、防除や春先の風害対策としての利用にとどまらず、新たな試みとして、ハウス内の温度を下げる細霧冷房として活用している。

夏場のハウス内は高温になるため、かんがい用水を活用した細霧冷房によって、作業環境が向上した。

・地域では作物のブランド価値向上を図るため、YES!clean や GAP などの認証制度に積極的に取り組んでいる。

認証等手続きが大変ではあるが、消費者に評価され、価格に反映されるなど経営の改善につながっている。

・水があることで、安全・安心、安定的に作物を生産することができ、高収益作物の栽培や 6 次産業化の展開につながっている。

また、消費者に 6 次産業化の取組が評価されたことで、消費者が地域に訪れるようになり、地域の PR や活性化につながっている。

・事業で整備された施設の維持管理については、管理委託を受けた関係市町村で「札内川地区かんがい施設維持管理協議会」を組織し、民間の業者と連携しながら、効率的な維持管理を行っている。

・地域では、ライフスタイルを重視する移住者が増えており、その方々は、地域の取組に積極的に参加するので、維持管理活動組織の運営に役立っている。

以上

平成 28 年度 事後評価「湧別地区」国営事業評価技術検討会
現地調査概要（案）

日 時：平成 28 年 5 月 18 日（水） 14:30～15:40

出席者：（技術検討会）長澤委員長、岡村委員、中原委員、波多野委員、森委員
（地元関係団体等）農業者、湧別町、湧別町農業協同組合、

事務局：北海道開発局

概 要：

【現 地】整備箇所(排水路、整備ほ場)、TMR センター

【意見交換会】

委員から、事業に対する効果、要望、期待等に関する質問があり、参加団体から以下の回答や意見、状況説明等や委員から評価に関する意見があった。

・地区内の農地は泥炭土であり、事業実施前は、畑の中に機械が埋まると、さらに大きな機械を持ってこないと引き上げられない状況であった。

・事業実施前の牧草は、野草に近い状況であったが、事業実施後は、青刈りとうもろこしや牧草の品質が良くなり、収量も増加した。

また、農地の排水性が良くなったことで、かぼちゃの作付が可能となり、現在では、湧別町内でもトップクラスの収穫量である。

・本事業が契機となって、TMR センターの設立につながり、地域への波及効果が生まれている。

・TMR センターがほ場を管理し、良質な粗飼料を供給することで、酪農家は飼養管理に特化し、飼養頭数を増やすことができた。

また、以前は 65 歳で離農するのが一般的であったが、70 歳頃まで営農できるようになり、新規就農者が育つまでのつなぎ役として地域農業の担い手となっている。

・農協が行っているコントラクター作業と連携し、ローテーションを組んで作業することで、栄養価の高い時期に牧草を収穫出来るため、均一な飼料を調製出来ることが強みである。

・良好な農地を将来にわたって維持していくためには、泥炭土の沈下量をモニタリングすることが重要である。

以上